

缶数と人工を載せる見積書フォーマット

面積・塗料・缶数・工程・人工数——「何を・どれだけ・何人で」が読める見積書の型です。

缶数と人工が書いてある見積書は、施主にもAIにも「ちゃんとやる根拠」として読まれ始めています。

記入表（標準12工程・◆はグレーゾーン工程・自分の現場に合わせて増減可）

#	工程	仕様（塗料名・条件）	数量	単位	塗布量 (kg/m ²)	缶数 (容量併記)	人工	金額 (円)
1	仮設足場	(例) 住宅用くさび式・メッシュシート込		m ²	—	—		
2	高圧洗浄	(例) 15MPa・バイオ洗浄併用		m ²	—	—		
3	◆下地補修	(例) ひび割れ補修・欠損部の補修		m	—	—		
4	◆ケレン	(例) 鉄部・付帯部の錆落とし・目荒らし		m ²	—	—		
5	◆コーキング（撤去含む）	(例) 既存撤去・打ち替え/増し打ち		m	—	—		
6	養生	(例) 窓・玄関・車両・植栽		式	—	—		
7	下塗り	(例) 弱溶剤系下塗り材		m ²	〈規格0.11~0.23〉			
8	◆下塗り増し塗り	(例) 吸い込みが激しい面の増し塗り		m ²				
9	中塗り	(例) 上塗り材1回目		m ²	〈規格0.11~0.17〉			
10	上塗り	(例) 上塗り材2回目（中塗りと同一塗料）		m ²	〈規格0.11~0.17〉			
11	付帯部塗装	(例) 軒天・破風・雨樋・水切り		式				
12	完了検査・清掃	(例) 自主検査・手直し・美装		式	—	—		
合計						缶	人工	円

◆＝グレーゾーン工程（完成後の見た目から検証できない工程）。行う場合は、人工の欄まで記入します。

付帯部は1行にまとめています。自社の施工順に合わせて行を分けてお使いください（例: 外壁より先に塗る部分＝軒天・破風・横樋／外壁より後の部分＝縦樋・水切り・雨戸）。

塗布量はメーカー公表値の範囲で書く（下地の吸い込みで変わるため）。缶数は切り上げ後の数を、容量とあわせて書く（例 2缶（15kg））。2液型は主剤＋硬化剤の1セットを1缶と数える。発注用のロス分・予備はこの欄に含めない。

保証	対象部位（ ）／年数（ ）／条件（ ）
----	--

書き方見本（数量・人工はすべて架空の例です）

外壁180m²の例: 下塗り「弱溶剤系下塗り材」| 180m² | 0.15kg/m² 〈規格0.11~0.23〉 | 2缶(15kg) | 2.0人工

書くときの3点

- 中塗りと上塗りは別の行・別の人工で書く——塗り重ねの乾燥時間を確保する計画である目印になります。
- 高圧洗浄のあとに下地補修の人工を確保する——「塗る前に直す」順序が見積書から読めるように。
- 「一式」でなく数量と単位を書く——数量が書いてあれば、缶数は下の式で誰でも検算できます。

缶数の検算式（表内の数値だけで完結）

必要量(kg) = 面積 × 塗布量(kg/m²) × 塗り回数 / 必要缶数 = 必要量 ÷ 1缶の容量(kg)（切り上げ）

例: 180m² × 0.15kg/m² × 1回 = 27kg ÷ 15kg缶 = 1.8 → **2缶**（一式項目は検算対象外）

考案: 横井隆之（ヨコイ塗装 2代目・施工歴25年・直請け250件超） | ペンキ屋、AIを書く

※本フォーマットの見本数値はすべて架空の例であり、実際の見積書ではありません。

※塗料名はご自身の使用製品を記入してください（見本は系統名で表記しています）。

※塗布量・缶数の見本値はメーカー公表値の範囲を示すもので、この数値で発注できることを保証するものではありません。